

白藍塾オリジナル

2021入試小論文分析&解答のヒント

2021年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

● 慶応・文学部

長めの要約問題+短めの小論文問題という出題形式は、近年の傾向と同じ。ただし、今年度は要約と小論文の字数が同じ(320~400字)になっている。

課題文は、近代における『徒然草』の解釈の変遷を追ったもの。ストレートに文学の話題を扱った課題文は、近年では珍しい。簡単にまとめると、次のようになる。

『徒然草』の「つれづれ」は、大正頃までは「退屈」と同義と解釈されてきたが、昭和以降、それこそが『徒然草』の主題であるとして、そこに高い精神的な境地を認める解釈が広まった。だが、近年は、むしろ「つれづれ=退屈」説へと回帰しつつ、『徒然草』の主題をもっと多様なものとする解釈が定着しつつある。こうした『徒然草』の解釈の変遷を見ればわかるように、古典の解釈には時代の思想や文学観などが反映されていて、正解というものはない。だが、古典は、唯一の正解がないからこそ読み継がれてきた。正解はつねに相対的なものでしかないが、そうした正解の出ない問題にたえず取り組むことを通じて、現代的な問題を考えるきっかけになる点に、学問的な意義がある」

設問Ⅰは、以上のような内容を字数に合わせてまとめるとよいだろう。

設問Ⅱは、「正解の出ない問題に取り組むことの意義」についての自分の考えを述べることが求められている。

課題文は、「正解の出ない問題に取り組むこと」は、正解を出すこと自体ではなく、その取り組みを通じて現代的な問題を考えるきっかけになる点に意義がある、と述べている。そこで、そうした筆者の考えが正しいかどうかを考えるのが、正攻法だろう。

どちらかと言えば、イエスで答えるほうが論じやすい。現代の思想・文学系の学問では、客観的な真理というものはなく、歴史やテキストの解釈なども時代によって更新されるものとされている。そうした考え方を自分なりにしっかりと説明できれば、十分合格レベルになる。

もちろん、ノーで答えて、「正解がないことを認めてしまうと、学問は恣意的なものになってしまう。客観的な事実やデータで裏付けられた解釈を積み上げることで、正解に近づくことこそ、学問の意味がある」などのように論じても、十分説得力のある内容になるはずだ。

ただし、別に古典研究のあり方がテーマになっているわけではないので、学問や文学研究全般のあり

方について自分なりに考えて論じることが必要だ。

©執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://hakuranjuku.co.jp>